

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム ビバ南ヶ丘	評価実施年月日	平成19年11月9日
評価実施構成員氏名	西野 有賀 志田 松田 安念 細野 藤部		
記録者氏名	藤部 静枝	記録年月日	平成19年12月9日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>理念は職員全員で決めたものであり、一人ひとりが認識できている。また、地域の中でその人らしく暮らすことを理念にあげている。</p>		<p>地域の人が訪れる機会を作っていきたい。 (地域の人が気軽に立ち寄れる場として)</p>
<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>月1回の全体会議、毎朝のミーティングにてホームの理念や運営方針等具体的に職員に話しているので共有が図りやすい。</p>		<p>壁に理念が貼り出されており、いつでも読めるようになっている。また、決まったミーティングだけではなく日常から理念に基づくケアについてスタッフ間で随時話しあっていく環境をつくるよう努めたい。</p>
<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>ホームの月間予定・おたよりを地域へ回覧している。家族へは個別に日頃の様子等のおたよりを発行し、理解に努めているが、地域の方々への説明機会はあまりなく、理念を伝えていく工夫を図っていかなければならない。</p>		<p>家族・地域住民の方々にはホームだよりを活用しコメント等を工夫していきたい。又、地域の行事等に参加した時に理念を説明していきたい。今後は、今以上にご家族や地域の方に、直接自分達の取り組むケアを通して理念を具体的に理解いただけるよう努めたい。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>買い物や散歩等へ行く時など日常的に声をかけたり挨拶をしている。回覧板を回すなど近所の方々との関係を深めていけるように心がけている。</p>		<p>地域の方々にもホームに気軽に立ち寄ることができるように、こちらの行事の時にも招待したいと考えている。ホームの行事や外出の際はボランティアとしての参加もしていただける関係になれるよう努めたい。</p>
<p>地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の行事に参加している。地域、入居者、民生委員、行政の方々が参加し話し合いがもたれている。</p>		<p>今後はもっといろいろな行事に参加し、地元の方々との交流を深めていきたい。また、ホーム側からも、地域の方がスタッフや入居者と一緒に参加できる様々な研修(口腔ケア・消防等)を発信していきたい。</p>
<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>何かの役に立ちたいと職員も思っているが具体的にはされていない。特に認知症の事についての悩みや、困っている事等あればお役にたてるのではないかとと思われる。</p>		<p>ホームを理解して頂き、広報には認知症の症状や医療的な情報、認知症予防に効果的なゲーム等を掲載し、町内の高齢者や認知症のご家族をお持ちの方の相談窓口になれるよう、努めたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回の外部評価で指摘を受けた点について職員全員で話し合い改善につとめている。		町内会へのおたよりの工夫、行事への参加等を含め認知症に対する理解を広めていきたい。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を開催してグループホームや認知症についての理解が広がっていると思われる。家族、町内会の方々から意見を頂き日常の活動に活かすべく、職員全員に共有の認識を図っている。		運営推進会議で取り上げられた内容について話し合い、更なるサービス向上に繋げていきたい。ホームの事を地域の方々に理解してもらえようなおたよりを工夫していきたい。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	介護認定の更新手続き等、月初の入居状況の報告時等にホームの様子を伝えている。		市町村担当者との連携を強化し、事業所の実態や考え方等を知ってもらうよう努めていきたい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在利用してる方はいないが、研修会へ参加して学ぶ機会を設けている。		職員全員が勉強会を開く等して理解を深めていきたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者は、職員の言葉や態度を含め小さな気付きに敏感になるよう努めている。職員全員で勉強会を実施している。		定期的に勉強会を開き職員全員で理解を深めていきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	事前に書類を渡し他の家族にも理解してもらえようようにしている。利用料金や起こりうるリスクなどは十分な説明を行っている。退去に当たっては家族・職員を含めてカンファレンスを行っている。		利用者や家族が不安や疑問点等十分に表出できるような働きかけと説明を行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	自身の思いや意見を上手に表す事が困難な利用者であっても、表情や態度、言葉等からその方の思いを察するように汲み取れるように努力をし、利用者本位の運営を行っている。		利用者本人が外部の人に思いや意見を言えるような場・機会を作っていくたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	来訪時や異変があった時には状況報告している。介護記録と面会簿が個人ファイルと一緒にっており見てもらっている。日常の様子もお伝えしている。預かり金に関しては毎月使用領収書、残高を利用請求書に表示しお送りしている。		来訪されることの少ない家族には定期的に発行しているおたよりの他に、電話や個々の日常を伝える手紙等出したいと考えている。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ケアプランの説明、同意書を頂く時、家族に要望や意見を聞いている。		来訪時には、どんな事も言ってもらえるような関係を作り、意見や不満を言いやすいような雰囲気作りをしていきたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃からコミュニケーションをとるように心掛けている。職員の意見や要望を聞くようにしている。		毎月定期的に職員会議を開催しているが、個別面談を行い、日頃聞けない意見や要望を聞き出せるようにしていきたい。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	状況による変化で変更が必要となった場合、その都度ミーティングを開き、翌日より利用者の生活に即した時間配分での勤務体制を取っている。一日経過した後、改善の余地の有無と継続について再度話し合い、実行している。		その日の変化や状況に合わせた個別ケアに重点を置き、職員の休憩時間も変更したりしている。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	やむをえず職員が離職した場合や新しく入った場合は利用者の対応や説明を十分に行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の研修は行われているが、研修内容のフィードバックはあまり行われていない。		内部研修を図り、職員間で共有していきたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者のネットワークに参加しており段階に応じた研修を行っている。		全職員が他施設の見学や、研修の機会を増やしていきたい。今後は他のグループホームでの実務研修を取り入れたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	ホーム内には、職員の休憩室が設けられている。職員間の人間関係を考慮した上で勤務表の組み合わせを考えている。		自分の思いを聞いてもらえるように個人面談を図っていきたい。また、気分転換を図れるように職場以外で職員の交流の場を作っていきたい。
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	必要な外部研修に参加し、職員一人ひとりのスキルアップを図っている。		外部研修や資格取得に向けた支援を行っている。今後は研修で学んだ事を発表し、互いに学びあえる環境を整えたい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	普段の会話の中から本人の思いや不安に思っている事など敏感に感じ取れるよう努力し、傾聴し受け止めるようにしている。		本人が困っている時や混乱している時は、本人の思いに耳を傾け信頼される関係作りを心掛けている。
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面談時にはこれまでの経緯や、困っている事など聞いて今後どのように取り組んでいくかを話しあっている。また、ホームでの生活の様子を見てもらっている。		家族の想い、本人の思いをしっかりと受け止めそれに応えられるようなケアを心掛けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の状態を見極め、何を必要とするかを考え家族と相談しながら、他のサービス内容も検討し対応している。		相談された内容によっては、そのことを改善するために必要に応じて他のサービス機関にも連携を取り繋げていくように運んでいる。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前にはできるだけ本人と家族と一緒に見学に来て頂き、家族から本人に話をし納得が得られてからサービスを利用してもらうようにしている。		入居前に家族と共に行事や食事等にお誘いして、他利用者や職員等の環境に馴染める様にしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の生活歴を理解した上で、持てる力を発揮する場面を作るように努力している。買い物・食事作り・掃除等色々な場面において常と一緒に行動するように取り組んでいる。料理や裁縫等教えてもらうようなセッティングをして一緒に行動している。		若い職員は味付けや調理方法等を実際に入居者から教えてもらう事もある。入居者が庇護される立場ではなく、共に生活するためのそれぞれの役割だと認識してもらえるような環境づくりに努めていきたい。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者に変化があれば家族に伝え、報告・相談を密に行い、来訪時には介護記録を読んでもらっている。思いや意見を聞きながらケアにつなげている。		お茶を飲みながら、楽しかったことや、思い出話し・子供の頃の話など、時折り本人から聞いている。懐かしい歌や印象に残っている事など色々とその時々で替わるが、耳を傾けている。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族の思いを十分に聞き、把握したうえで本人の様子を負のイメージを持たないような表現で伝えている。		食事会や行事等に家族を招待していきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	以前から行っていた病院や馴染みの場所等に、買い物や散歩・ドライブ・ミニ行事等を通して行っている。		利用者が以前住んでいた地域に出かけてみたり利用していたスーパーなど一緒に出かけたりしている。

項目	取り組みの事実 (実施内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	いつも座る位置への気配り、気の合った人同士での外出や団欒の時間を作っている。		人の和に入るのが苦手な利用者であっても、利用者同士が職員を通じて日常的な作業の中で、できる場面を作り助け合いができるように努力している。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	継続的な関わりを必要とする利用者や家族は現在いないが、必要によって退去先への訪問や行事へのお誘いを考えている。		サービスの終了された方にも、入所中に培った関係性を大切に、その後も相談や支援できることがあればフォローしていきたいと考えている。
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中での動作や様子、普段の会話の中から本人の思いや何を願っているかを、アセスメントシートの活用、職員の情報共有を通して把握するようにしている。又、インフォ・マルサービスの活用等も場合によっては検討している。		職員は、馴染みの関係から信頼関係を築き利用者の意思を把握できるような声かけ、支援を行い、家族からも利用者の情報を得て希望や意向を汲み取るようにしている。
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用時には自宅訪問や家族からどのような生活をされていたかを聞いているが、基本的に家族・ケアマネジャーとの情報を密に行うようにしている。		職員は、折に触れ、本人自身の語りや思い出話を聞いたり、その時その時の話や思いを受けとめ、日々の暮らしに安心して過ごせるように、これまで送ってきた生活の把握に努めている。
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの生活リズムを知り、本人の状況を総合的に判断している。申し送り時等に職員間の情報を共有している。		生活・心理面の視点や、できないことよりできることに注目し、その人全体の把握に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的に、モニタリング・ケアプランの見直しを行い、変化が有れば、状況により計画の見直し等を図っている。家族との話し合いも来訪時に行うようにしている。		本人や家族には、日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	適宜モニタリングを行い、状況により課題の設定をしている。		本人の状況に変化があった場合、職員全員で問題について話し合い、更新するまでであっても検討見直しを行っている。
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランに沿った介護記録と特記事項を設けている。日々の様子や変化があれば記録されている。全職員がいつでも確認でき、夜勤者からの申し送りも必ずされている。		職員の気づきや利用者の状態変化は個々のケア記録に記載され、職員間の情報共有を図っている。また、個別記録を基に介護計画の見直し、評価を図っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の希望されるかかりつけ医に受診等の支援をしているが、今後本人の変化や重度化した場合等を含め、本人と家族の暮らしの継続性の考慮、事業所として、どのように対応し配慮をしていくのか検討していかなければならない。		現在は行われていないが、地域や近隣高齢者が利用できる場所になるようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内会老人クラブ主催の行事等に参加している。運営推進会議に民生委員の方も出席されていて実情を伝えている。また、行事時等ボランティアの方も来て頂いている。		必要に応じて図書館の利用や、運営推進会議に消防署・警察署の方にも参加を呼びかけていきたい。
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の馴染んだ美容院・理容院・病院・リハビリ施設等必要時には、他のケアマネージャーやサービス事業者と連携を図りながら努力している。		今後は、本人・家族の希望があれば事業所以外のサービスにも必要に応じて受けられるよう取り組んでいきたい。
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターとの本格的な協働は行われていないが、ホームからの情報提供を行っており、相談できる環境にある。		今後、権利擁護やボランティア・インフォーマルサービス等、総合的に判断し、地域包括支援センターに相談していきたいと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問診療やかかりつけの病院から、細やかな相談を受けている。状態に不安がある時には、定期的に報告しアドバイスを受けている。		事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、家族と協力し通院介助を行ったり訪問診療に来てもらったりしている。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	地域の医療機関と提携し、個々利用者のかかりつけの医師に指導助言を受けているが、認知症専門医とは連携がとれていない。		認知症専門医の協力、指導・助言を得られるようにしていきたい。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所としては、看護職員を確保していないが、訪問診療の医師・看護師には、気軽に相談ができています。		利用者の状態変化や急な発熱等には、24時間相談が可能となっている。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時の情報提供書の作成、医師の病状説明には同席している。		入院時や退院時に向けての相互の情報提供を密に行うように努力している。医療機関・家族との連携を図りながら本人のダメージを最小限に抑えられるよう退院の支援を心掛けている。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	現在は重度化した利用者はいない。終末期のあり方については、家族・主治医・職員と話し合いの場を持ち家族の意向を尊重した対応に努めたいと考えている。		職員とはケア会議などで話しあってはいるが、現状の入居者に必要なケアの総合的な面から考えても現段階では困難である。重度化や終末期に関してはご家族の協力が必要であるので、今後の課題としてホームの体制を整え、ご家族にも協力してもらえるよう方法を検討し、努めたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度や終末期の方はいない。		人的にも重度や終末期の方を受け入れる体制が整ってはいないが、諸条件が整い、いずれは対応していく様に取り組みで行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他へ移られる場合は、本人の基本情報はじめアセスメント・ケアプラン・日常生活記録等詳細に伝えている。</p>		<p>本人のこれまでの生活が継続できるよう関係者や家族と十分に話し合いを行っている。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>ミーティング・ケア会議等で、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしない事を、職員間で確認している。また個人記録の際にはイニシャルにて記載している。</p>		<p>人前であからさまに介護したり誘導の声掛けは、目立たないようにさりげなく対応している。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの状態に合わせての声掛けや、意思表示の困難な方には表情を読み取るようにしている。複数の選択肢を提案して本人の決定にゆだねている。</p>		<p>職員が本人の決めた事を尊重し、本人の選択肢を誘導しないように、声掛けの仕方も配慮して行っている。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりの体調、状況に配慮して、その方が今何をしたいのか、何を思っているのか、その時の本人の気持ちを尊重し、できるだけ個性のある支援を行っている。</p>		<p>買い物や散歩等、その方の状態や思いに心を寄せながら柔軟に対応している。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人主体で身だしなみを整えられるよう職員は必要な時に手伝うようにしている。洋服は、本人の好みの物を選択して頂いている。理・美容室の際は馴染みのお店がある場合は、支援している。</p>		<p>本人のこだわりや個々の生活習慣に合わせて自由におしゃれが出来る様に支援している。不十分なところや乱れは、さりげなく直している。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>調理、盛り付け、片付け等できる方には、野菜の皮を剥き、切っていただいたり、食器の洗い物等もしていただく。その日の利用者の意思や気持ちを一番に配慮し進めている。特に煮物等は、入居者に味見をしていただきながらアドバイスをもらい調理している。</p>		<p>メニューは利用者と相談しながら決めるようしているが利用者の好みを十分に取り入れていきたい。調理などに参加する事で、ホームでの生活の、自分の存在価値を認識し、穏やかに暮らせるよう努めたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人ひとりの嗜好を把握し、好まれる物等を提供して意向を大切にしている。喫煙・飲酒に関しては日常は行っていない。		喫煙は行わない入居者が対象となっている。(本人・家族の要望)飲酒に関しては医師や家族から止められている方もいるので、ホーム内では行事の時のみ、ノンアルコールビール等を使用している。地域の行事の際は、地域の担当者に協力していただき、ノンアルコールビール等の対応での提供をしている。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの水分摂取、服薬状況、時間や習慣を考慮しトイレ誘導している。排便、排泄状況を把握し食事の内容、飲水量等も考慮している。		紙パンツ使用の尿意のない利用者にも時間を見計らい、声掛け・促しにてトイレで排泄をできるよう支援している。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的なプログラムはあるが、本人のこれまでの生活習慣や希望に合わせて入浴できるよう工夫している。		職員が一方的に決めず、利用者のその日の状況、希望を確認し入っただいている。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの状態に合わせている。日中の疲れ具合に合わせて個別に休息を取り入れ、なかなか入眠出来ない時には、職員と一緒にテレビを観たり、おしゃべりを楽しみながら、ホットミルク等を提供している。		一人ひとりの体調や、表情、希望等を考慮してゆっくり体を休める事が出来るよう配慮している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの役割、楽しみごと等を作り出せる様職員が働きかけている。身体的、体力的に問題のある人には、満足感を得てもらえるように工夫している。		得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉をお伝えしている。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族と相談をしながら利用者一人ひとりの希望に合わせて、本人の金銭管理の支援に取り組んでいる。		利用者がお金を持つことの大切さを職員が理解し、日常の金銭管理を本人が行えるよう一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。自分の財布からお金を出す事で社会性の維持に繋げるよう図っている。

項目	取り組みの事実 (実施内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の意思を尊重している。車や車椅子等を利用し積極的に外へ出て、散歩や買い物等に出掛けている。		一人ひとりの希望や要望に合わせて外食や散歩、時にはお弁当を持って公園へ出掛けている。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年間計画を立て行っている。一人ひとりの希望や願い等が実現できるよう支援している。		本人の希望する内容に沿えるよう、時には家族の参加、協力を依頼する。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	本人に申し出等があった時、自由に電話がかけられるようにしている。家族からホームへの用事でかかって来た時でも、ご本人とお話していただくよう、配慮する。自室への電話の設置も希望があれば可能としている。		家族や友人に電話しやすい雰囲気を作り、電話の設置場所作りを工夫する。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪時は、一緒に食事やお茶を楽しんでいただいている。宿泊もしていただいている。		訪問時間等は決めておらず、都合の良い時間に尋ねてきていただけるよう配慮している。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	言葉や行動による拘束とはどういうものなのかを理解し、一人ひとりの利用者の行動を十分理解したうえでケアを行っている。		職員同士が気付いたこと、困ったこと等を話し合い、身体拘束をしないケアを図っている。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間のみ玄関に施錠している(遅出職員が退社後に行う)		利用者が外へ出る様子の時は、さりげなく声をかけ一緒について行く。自由に出入られるように支援している。

項目	取り組みの事実 (実施内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>職員同士の声掛け、居室においてはさりげない訪室に努めている。</p>		<p>職員は常時、利用者の状況を把握できるように待機している。部屋で過ごす事の多い利用者については、時間ごとに、さりげなく声を掛けたり訪問している。</p>
<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>一人ひとりの状況に応じて対応している。今日出来ていても明日は変化する、という事も踏まえて見守りしている。</p>		<p>過剰な管理をしないように利用者の状態を把握し、職員は注意をしながら対応している。</p>
<p>事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>緊急時の対処法についてマニュアルを作成し、対応方法の学習をしている。一人ひとりの利用者の状態から予測される危険を検討し未然に防ぐ為の方法を考えている。</p>		<p>ヒヤリハット、事故報告書等の活用で職員の共有認識を図りケアにあたっている。</p>
<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>定期的に(年1回)全職員が救命救急講習を受けている。常に職員はイメージトレーニングを行っている。</p>		<p>定期的に応急手当や緊急時の対応を繰り返し行い、緊急時にあわてる事のないようにしていきたい。</p>
<p>災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>定期的に避難訓練を実施している。</p>		<p>災害に備えて備品等の準備をする。</p>
<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>入居時の契約の際十分にリスクの説明をしているが、できる限り本人の行動を見守りしている。家族にはその後の現状を伝え、変化があればその都度リスクについて説明している。</p>		<p>起こりえるリスクについては、個別に把握しており柔軟に対応するようにしている。(できる限り自由に)細やかに家族へ状況を報告し相談している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	何らかの変化を感じた時には必ず職員間で情報を共有すると共に管理者へ報告し、状態を協力病院へ相談している。		常に体調や表情の変化に気を付けている。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人のファイルには各自の服用している薬の説明書を一緒に綴じてあり、職員がその薬の効果や副作用について把握できるようにしている。		服用時には本人に手渡し、服用できているかを確認している。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。	職員は排便コントロールの必要性を理解しており、排泄表を用い状況を管理者に報告している。水分・食物・運動等排便を促す対応に努めている。		食材の工夫や運動を働きかけることで自然な排便ができるように考慮している。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯磨き等、個別に働きかけている。残っている歯を最大限大事にするよう、舌の清潔等、口腔ケアに努めている。		一人ひとりの状態に合わせて職員が見守りながら、必要に応じて介助している。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個別に食事量・水分量のチェックを行い、その人に合わせた食事を提供している。		一人ひとりの嗜好を取り入れながら献立を考えていきたい。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、予防と早期発見に努めている。		ペーパータオルを使用している。家族に同意を頂きインフルエンザ予防接種を受けている。特に冬季は、湿度60%をめやすにしている。

項目	取り組みの事実 (実施内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>79 食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所用品、まな板・ふきん・箸等消毒を毎日行っている。調理時には手洗いの励行をしている。</p>		<p>食材の管理、冷蔵庫の中の点検・整理等定期的に行っている。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</p>			
<p>80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>スロープ・手すりの設置。椅子等置いたり、お花を植えて地域の方も立ち寄りやすい雰囲気を作っている。</p>		<p>玄関入り口付近には、立ち寄られた方が荷物を置いて休まれたり、一息つけるスペースがある。</p>
<p>81 居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>台所は対面になっており、調理は会話をしながら行っている。居間の窓からは道路・行き交う車や通行人・街路樹が見え季節の変化も感じられる。</p>		<p>生活感や、季節感のある物を取り入れて生活の場を整えていく。</p>
<p>82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>2階のフロアー・階段下のソファー・玄関先のスロープ等くつろげる空間を工夫し作っている。</p>		<p>人の気配を感じながらも一人でも楽しめる・ほっとするような、くつろげる空間を考えていきたい。</p>
<p>83 居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居者のなじみの家具や装飾品を備え、思い出の写真を飾る等してもらっている。居室の家具や配置等に関しては本人・家族の希望を取り入れている。</p>		<p>それぞれの利用者の好みやなじみの物を生活様式に合わせて使用している。</p>
<p>84 換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>トイレは24時間換気を行っており、温度・湿度も常に気にかけ、空気の入替えを行っている。ポータブルトイレを置いている利用者の部屋は、特に気を使い、空気の入替え、消臭剤を使用し対応している。</p>		<p>各部屋に温度計、湿度計を設置しそれぞれの利用者の状態に合わせて配慮していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85 身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。</p>	<p>手すりの設置や障害物を置かないようにしている。</p>		<p>段差や家具の配置等で転倒にならないように常に注意している。</p>
<p>86 わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>目印等は混乱を招かないよう、シンプルに分かりやすく表示してある。</p>		<p>居室には写真を飾ったり楽しみながら趣味の物等を活かしていきたい。</p>
<p>87 建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>天気の良い日には、お花をみたり外の景色を楽しみながら戶外スペースを利用して、おしゃべりしたり、日光浴もかねて気分転換を図っている。</p>		<p>戶外スペースを利用してミニトマト等も植えている。外の景色や空気、四季を感じていただきながら外気浴を楽しんでもらっている。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある            数日に1回程度ある            たまにある            ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族            家族の2 / 3くらい            家族の1 / 3くらい            ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように            数日に1回程度            たまに            ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

個々の持てる力を大切にして役割のある暮らしを支援している。日々安心・楽しい気持ちで過ごしてもらえるように努めている。